

様式第8号（第5条関係）

(その1)



平成28年4月1日

十和田市議会議長

工藤 正廣 様

会派名

自民公明クラブ

経理責任者

佐野清志郎印

平成27年度政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、
別紙のとおり平成27年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

平成27 年度政務活動費収支報告書

会派名 自民公明クラブ

1 収 入

政務活動費 3,240,000 円

2 支 出

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費	2,124,904	7/13~14 喜多方市・田村市(庁舎建築) 366,000 7/28~30 滝川市・岩見沢市(行政視察) 642,240 2/8~10 うるま市・名護市(行政視察) 1,116,664
研修費	200,000	7/15 林活議員連盟(岩手県) 200,000
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合 計	<u>2,324,904</u>	

3 残 額 915,096 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

調査研究費

(十和田市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則)

(その3)

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ			
活動議員名（取扱議員名）				
沢目 正俊	織川 貴司	小川 洋平		
石橋 義雄	堰野端 展雄	江渡 信貴		
斎藤 重美	氣田 量子			
区分				合計金額
1 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費	
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	366,000 円
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印		
期間 (年月日)	2015年07月13日～2015年07月14日 (1泊 2日)			
支出目的 (支出理由)	十和田市議会新庁舎建設にかかる行政視察			
用務先 (支払先)	喜多方市役所 田村市役所			
	別紙 視察報告書とおり 喜多方市 (新庁舎建設にかかる事業について) 田村市 (新庁舎建設にかかる事業について)			氣田 量子 江渡 信貴

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

行政視察報告

氣田 量子

喜多方市役所新本庁舎

喜多方市役所新本庁舎建設にあたって、市庁舎のあるべき姿として、行政運営及び議会活動の拠点施設として、利便性・機能性・安全性及び快適性などの通常備えられるべき一定水準を有し、市民が利用しやすく、親しみやすい、シンボル的な建物であることが求められていた。

外観は喜多方の街並みにマッチしていて、半円形のような形で目を引きました。わかりやすい窓口配置はプライバシーも重視されていて雰囲気もとても気持ちの良い窓口でした。議場への出入り口をスロープにするなど車椅子や高齢者の傍聴に配慮されていたが、階段も別付で備えたほうが良いと思いました。傍聴席が横に長く1列になっているのも使いづらそうでした。また、建物の構造上間口が広く、議員席が横に広がっていてカメラに映らない、記録室から議場が見渡せない等改善すべき点であり、理事者側の席が狭かったです。

喜多方市議会副議長のお話の中に、市民が新庁舎について全く関心がないことが問題だと述べていましたが、十和田市においても市民の意見を尊重したり、市民が利用できるホール等を作るなど、市民目線で慎重に協議していかなくてはならないと感じております。

田村市新庁舎建設行政視察

江渡信貴

H27年7月13日～14日まで新庁舎建設行政視察をした。田村市は阿武隈山系のほぼ中央に位置している高原都市です。人口は37000人、基幹産業は農林業、基幹作物は葉たばこで収穫量が福島県全体の約36%を占めている。2011年3月に発生した東日本大震災と原発事故は、田村市民の生活に深刻かつ甚大な影響を及ぼした。しかし、市内外を問わず、数多くの方々から支援、愛をいただき、人と人との「絆」によって将来への希望を抱くことが出来たそうです。田村市はこの大災害を経験した今こそ、先人の築いた歴史と文化、豊かな自然を礎に復旧、復興を進め、活気あふれるまちを取り戻し、これからの中子供たちに誇れる未来を切り開いていく覚悟で日々活動しているとのことでした。

同市は、市庁舎として活用している旧船引町役場庁舎を始め、旧町村の行政区すべてで既存庁舎を使用していた。そのため、市中心部は求心力に乏しく、市役所の場所が分からずの市民も多い。新庁舎ができれば「ここに市役所がある」とひと目で分かるシンボルができると考えた。

建物は、構造体である水平のスラブと鉛直の柱という縦横の直線が強調され、方形が積み重なるような複雑な外観を持つ。平坦ではなく、2階に棚を設けたイメージで、市の“象徴”にふさわしい真白い独創的な姿をしている。東日本大震災のような強大な破壊力を持った地震が今後も起こり得ることを想定し、地震時の揺れを低減することで建物へのダメージを減らす「基礎免震構造」を採用している。免震構造は、建物と基礎の間に、積層ゴムをはじめとする「絶縁」部材を入れた免震層を設け、地震による水平動が直接建物に伝わらないようになっていて、4階建ての新庁舎には、全部で44基の免震装置が設置された。これにより大地震が起きた場合でも、庁舎の機能を維持し、避難者支援や災害対策の拠点として活用できる体制になっている。

議会議場は県産材をふんだんに使っており、温もりのある空間となっている。議会運営に必要な最新電子機器もあり効率的な運営が出来る体制になっている。質問席も設けられさらに相乗効果が伺われる。車椅子でも傍聴できまた、傍聴席はバリアフリー化され来庁される市民の方々に優しい作りになっている。富塚市長が重視するのは、街中にぎわい創出であり。新庁舎には幅広い用途で市民に開放する多目的ホールを併設しており、利用者が後をたたないということだ。

設計は十和田中央病院の設計を請け負った昭和設計であることも何かの縁を感じた。

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ			
活動議員名（取扱議員名）				
沢 目 正 俊	織 川 貴 司	小 川 洋 平		
石 橋 義 雄	堰 野 端 展 雄	江 渡 信 貴		
斎 藤 重 美	氣 田 量 子			
区 分			合計金額	
① 調査研究費	2 研修費	3 広報費		4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	642,240 円
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印		
支出目的 及び 期間	H27・7・28 滝川市 住み替え支援補助制度について 7・29 岩見沢市 ごみ処理問題について 7・30 千歳市 防災学習交流センターについて			
用務先 (支払先)	滝川市役所・いわみさわ環境グリーンプラザ・千歳市防災交流センター			

内容及び成果

別紙 視察報告書とおり

滝川市 (住み替え支援補助制度について)
岩見沢市 (ごみ処理問題について)
千歳市 (防災学習交流センターについて)

氣 田 量 子
斎 藤 重 美
江 渡 信 貴

行政視察報告

氣田 量子

滝川市住み替え支援協議会

高齢者が施設に入所し、空き家になった住宅を若い子育て世代に賃貸する事業は、大変画期的な取り組みです。事業を展開してから3年目の今年度まで事業実績は年々伸びてきているが、子育て世代の需要に十分応えきれていないようです。どうしても高齢者の物件が古いため賃貸に出来ず売買登録になるケースが多いためです。不動産関係・建設業組合などで構成されている中空知住み替え支援協議会が窓口になっていて、合わせて空き家の対策にもなっており、十和田市でも実践出来そうな事業だと思います。

11階建ての素晴らしい庁舎には全員が驚きました。築25年には感じないデザインで、すべてにおいて広くゆったりといられる空間は素晴らしかったです。議場も今まで視察してきた中で一番で、入った瞬間歓声が上がるくらいです。是非新庁舎の参考にしてもらいたい議場です。

千歳市防災学習交流施設への行政視察

江渡信貴

千歳市防災学習交流施設は、防災に関する関心を高め、防災に対する知識・技術が習得できる施設である。施設の中核となる「防災学習交流センターそなえーる」、消火訓練・救出体験訓練ができる「学びの広場」、災害時を想定した野営生活訓練ができる「防災の森」の3つの施設で構成されている。

- ① 「防災学習交流センターそなえーる」は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の擬似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶことができる。

展示施設として

- ・災害学習コーナー・地震体験コーナー・通報体験コーナー・予防実験コーナー・防災情報検索コーナー・煙避難体験コーナー・避難器具体験コーナー等

会議室では

- ・小会議室・防災学習室・屋内訓練室・クライミングボード（山岳救助訓練板）などがあり、体育館では普段バトミントンやバスケットの練習場にも貸している。

- ② 「学びの広場」では、消火体験広場に設置されている屋内消火栓や水消火器を実際に使用し、使用方法、使用時の注意点及び、火災時の初期消火技術を学ぶことができ また、救出体験広場では、自主防災組織等の救出活動技術向上のための訓練を行うことができる。

③ 「防災の森」には、管理棟、学習棟、炊事棟の他、五ヶ所の広場がある。

- ・野営生活訓練広場（キャンプ場）

防災学習の一環として、災害時を想定した野営生活の体験を行うことができる広場であり、一般のキャンプ場としても使用することができる。

- ・サバイバル広場

サバイバル広場は自然の中に体力増進のための遊具を設けた広場。自然の中での利用を基本としている。

- ・土のう訓練広場

土のう訓練広場は、大雨による河川の氾濫や、家屋への浸水等の災害時に使用する「土のう」の作り方や、積み方を訓練する広場。作成した土のうは、河川災害訓練広場での水防訓練や実際の災害に活用するとの事。

- ・河川災害訓練広場

河川災害訓練広場は、大雨で河川が氾濫した場合など、土のう等による水防訓練を行う場所である。

- ・多目的広場

多目的広場は、防災学習のため多目的に使用できる広場でまた、雨水調整池としての機能も兼ねている。雨水調整池は、河川の氾濫などの水害を抑制するため、雨水を溜めながら少しづつ河川へ流す役割をもっており、雨天時は、この広場に雨水が溜まる仕組みとなっている。

災害に負けない街づくりや、災害への対処法が学べる施設であり。万一のときに備え、家族みんなで正しい知識を身につけることができ。身を守るために必要な知識を体験しながら学ぶことができる。普段なかなか確認することができない非常時の知識や備え。日本に住んでいる一員として何が出来るか経験を持って確認できる施設である。十和田市にとって「施設を建設」とは無理だが、体験できる機会を今以上増やす方向で進めては、と再認識した。出前講座等メニューを増やしてはどうか？

十和田市議会　自民公明クラブ行政視察報告書

齊 藤 重 美

会派としてゴミ問題をテーマにして平成27年4月から共用開始しているいわみさわ市環境クリーンプラザを視察させていただきました。出てくるゴミで燃やせるゴミは焼却して、その熱を利用し電気を作り出し施設内で有効利用押している。また、燃やせないゴミ・大型ゴミ等は破碎・選別・圧縮梱包して何度も再利用し捨ててしまうゴミを減らす循環型社会を目指しているとのこと。

●いわみさわ環境クリーンプラザ建設の経緯

岩見沢市のゴミ処理などについて今後予想される課題を明らかにするためH22年度に「きれいなづくり検討会議」を立ち上げた。問題を12ケースに分け、揉んだ結果、答申として「熱分解ガス化溶融炉」プラス「破碎選別」を選択。H23年度に府内組織「新処分場建設室」を設置、H24年2月に近隣市町村と広域処理について話し合いがスタート。H27年4月より共用開始した。ちなみに広域処理の方法は、一部事務組合や広域連合を組織せず、事務の委託で行っている。

岩見沢市ではごみのよりよい始末を進める市民会議を設置している。また、市では、条例で位置づけをし、現在に至っている。先般、青森県のリサイクル率は全国平均より下回っているとの報道があった。十和田市にとってもこの活動はゴミの減量化啓発につながる大きなポイントとなるだろう。この点を踏まえ政策に盛り込んでいきたい。

(十和田市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則)

(その3)

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ		
活動議員名 (取扱議員名)			
沢目 正俊	石橋 義雄	織川 貴司	
小川 洋平	堰野端 展雄	江渡 信貴	
齊藤 重雄	氣田 量子		
区分			
① 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印	
期間 (年月日)	28年2月 8日 ~ 28年 2月 10日 (2泊 3日)		
支出目的 (支出理由)	名護市農産物 6次産業化支援拠点施設整備事業視察 うるま市経済の活性化と失業率の改善について視察		
用務先 (支払先)	沖縄県名護市 沖縄県うるま市		
	別紙の通り		

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

十和田市議会・自民公明クラブ行政視察報告書

齊藤 重美

日 時 平成 28 年 2 月 9 日 11 時から

場 所 名護市農産物 6 次産業化支援拠点施設整備事業

会派として 6 次産業化をテーマにして平成 24 年度から事業している(なごアグリパーク)を視察させていただきました。

名護市の就農者数は減少傾向にあり、農家の高齢化や後継者不足は深刻な問題となっている。

その要因の一つとして、不安定な農業所得が挙げられる。農家は、台風被害、市場価格の変動により、安定した収入を得難い状況となっている。地域の農家からは、新商品開発、販路拡大等の 6 次産業化により収入を安定させたいという声はあるが、それに投資するだけの経営体力がない。

これらの問題を解決すべく、6 次産業化支援施設としてアグリパークを整備したい。

農産物の高付加価値化を図る施設と誘客を担う観光農園を同時に整備することにより、名護市の農家の経営安定、農家所得の向上を促し、就農人口の増加につなげていくとのこと。

期待される事業効果としては、農家の 6 次産業化推進、農家所得向上、就農人口の増加。

十和田市まち・ひと・しごと創生総合戦略のうえでも、基盤産業が農業である十和田市には緊急に取り組む必要があると感じた。

本事業の運営の見通し及び実施体制は観光客誘致のノウハウ、種々の施設管理運営能力を有する企業（沖縄美ら島財団）が指定管理をしており、全施設整備後には年間 30 万人の誘客を目指すことでした。

担当者は、首里城や美ら水族館などを手がけてきた実力者である。農家の後継者育成や、近隣農業者の意識改革等、これから対策も計画中であり十和田市の 6 次産業化推進のため、これからも注目していきたい施設である。

まだ観光農園は出来ていませんでしたが、加工支援施設・ショップ施設をも視察してきました。十和田市道の駅と違い地元の加工品のみを厳選し 500 品目を集め、農園等に関連した本も販売されていました。これからも農家の方々に商品開発を促し販売品数を伸ばして活性化を図っていくそうです。

十和田市議会・自民公明クラブ

うるま市行政視察報告書

氣田 量子

日時 平成28年2月10日（水）9：00～

場所 うるま市役所 第3委員会室

・経済の活性化と失業率の改善について

沖縄県も青森県同様、高い失業率、低い市民所得などの課題をかかえております。うるま市は若年層の失業率が高く、その要因は都会へ就職しても地元へ戻ってくる若者やひとり親が多いからだそうです。担当者の方は、地元愛が強い土地柄なので、戻ってくる若者が多いとおっしゃっておりました。うらやましい限りです。うるま市失業対策アクションプランは、うるま市内の就業構造の特徴、就労意識の実態、企業において求められる人材像の把握を通して、総合的かつ効果的な雇用対策計画を立案する際の指針を策定。市民世帯アンケート、統計データからみる現状、求職者のヒアリング、企業からみたニーズなどを調査して課題を浮かび上がってきた課題解決に向けアクションプランを作成しております。2020年において完全失業率ヒトケタ台を目指すとの目標を掲げ、目標達成の為に全庁的に取り

組んでいます。なかでも、就活サポートであえへるではハローワークの求人オンライン提供を行ったり、地域の公民館への相談会出張や、休日開所などを実施し、求職者へのサービスの向上に力を入れております。一例を上げますと、子どもの一時預かりや、履歴書の添削、模擬面接、そして、一番感心したのは、面接等に必要なスーツのレンタルも行っていることでした。就職できるまでのきめ細やかな心配りが失業率の改善に大きく貢献していると思いました。ハローワークは国の機関ですが、市と国が連携して失業率の改善に協力しあっていることも、驚きの事例でした。

十和田市においても調査、解決に向け、うるま市のような取り組みを失業率改善に取り入れる事が、早急に必要なのではないでしょうか。

(十和田市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則)

(その3)

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ		
活動議員名（取扱議員名）			
沢目 正俊	織川 貴司	小川 洋平	
石橋 義雄	堰野端 展雄	江渡 信貴	
斎藤 重美	氣田 量子		
区分			
1 調査研究費	2 <input checked="" type="checkbox"/> 研修費	3 広報費	4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印	
期間 (年月日)	2015年07月15日 ~ 2015年07月15日		
支出目的 (支出理由)	平成27年度森林・林業・林産業活性化促進 十和田議會議員連盟調査視察		
用務先 (支払先)	紫波町農林公社		
	別紙 視察報告書とおり 紫波町 (森林・林業・林産業活性化促進について) 斎藤 重美		

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

森林・林業・産業活性化促進調査視察研修報告書

紫波町における木質バイオマス利用について

全国どこでも見受けられる間伐材を乾燥利用し、木質燃料用チップに製造し、エネルギーステーションまでの工程を視察させていただきました。

一人で間伐材を運び出すことは大変重労働作業ですが、地域の人達が力を合わせれば出来ることだと思いました、そして山林がきれいになれば一石二鳥だと思いました。

エネルギーステーションでは熱エネルギー・熱発電により学校及び公共施設等に供給しているとのことです、当市では官庁街・繁華街・主要道路下に埋設して融雪対策を検討してみてはいかかでしょうか。